

環境的考察

産業廃棄物処理法の施行に依り、再生工事の見直しが迫られています。日本では環境問題への認識が未熟ですが、環境保全の先進国ドイツでは、取り壊す費用が、新築と同額になっていると言います。世界的流れから見ると、我国でもスクラップ&ビルドの時代は終焉を迎え、再生や長寿命の家づくりが建築の主役になってゆく流れは確実であろうと思われま

構造的考察

伝統的木造住宅には、釘・金物はほとんど使用されていません。

日本の風土は他国には類を見ない程厳しく、高温多湿、数多くの台風の襲来、そして地震・・・そういった過酷な自然条件の中で、伝統的建築物は100年以上も、堂々と耐えている。どう見ても弱そうな自然素材で出来た「伝統木造住宅」が、近代技術の粋を集めた「現代木造住宅」の数倍、何百年の過酷な自然に堂々と耐えているのはなぜでしょうか。

それは、伝統的建築物には千数百年の先人の知恵が埋まっているからです。近代的木造建築物は工業生産された釘金物や合板に頼っていますが、伝統的木造建築物は木組みの妙、即ち、柱と梁の木組みと、地震時に柔らかく対応する小舞組みの土壁との組み合わせが、我が国の風土に合致していると言えるでしょう。

民家再生で利用できる部材は、新築時の全木材使用量の1/4程度と建具類にすぎませんが、幾度となく再利用できる構造、エコロジ的な和組は資源少国の我が国にとっても、京都議定書の遂行のためにも必要かかさざる事があります。

健康的考察

昨年、シックハウス対策として全ての建築物に24時間換気システムの導入が義務付けされました。

我が国の伝統的建築物は、木、土、紙と全て環境に負荷を与えず有害物質も発しない優しい物質で出来ていましたが、工業化の進んだ現在、現代木造建築物は合理化優先で強力な接着剤を使用し、建材から家具の隅々まで金物と接着剤づくしの家づくりとなっています。

これらの対策のために新法律が施工されたわけですが、根本的な対策は、先人の様に有害物質を発しない材料を使用することが解決の近道と言えます。

まとめ

以上、環境的にも、構造的にも先人の知恵を取り入れた伝統的建築物は日本の風土に合致し、個々の健康のためにも、長持ちする家は経済的にも国民に有利で、機能的な部分を上手に組み込めば本当のエコハウスの誕生となり、人類生存のためにも私たちは伝統的木造建築を研究、促進することが急務と言えます。

再生の分類

古材利用には、

「現地再生」「移築再生」「古材を利用した建物」の3ケースが考えられます。「現地再生」とは、建ったままの状態の物を再生することで、「移築再生」とは、現在建っている場所から他の場所に解体・運搬し骨組を利用して、新しく作り直す方法で、「古材を利用した建物」とは、その名の通り建物の一部に古材を利用することです。

「現地再生」には、大きく3つのケースがあります。

1. 現存する建物の傾きなどを直し、傷んでいる部分は必要に応じて補修、取り替え、間取りから外観まで、設備も含めて建物を全体にわたり改造する「全面的再生」
2. 全体を改造するのではなく、最も傷んでいる場、不便な箇所（水廻り）、あるいは一部の部屋の改造・改修、又は納屋や蔵、屋根裏などを改造し、二世帯住宅やアトリエなどに改造する「部分的再生」
3. 全面的再生を行なう予算が足りない時、予算に合わせ、段階的に行なう「段階的再生」

其の他、新築・増築の一部に古材を使用する際、移築再生に近いケースがあるが、移築再生時には、顧客より、物件の調達まで依頼されることがある。その時に、容易に古民家収集が出来る様、

- 1) 情報インフラの整備
- 2) ネットワークの拡大
- 3) 解体事業への参入

等の事も事業の中に組込めば、営業の強化につながる事になります。



再生の手法・プロセス

